

2014年2月26日

日興アセットマネジメント株式会社

補足資料

ABグローバル・ハイインカム・オープン(毎月分配型)為替ヘッジなし／為替ヘッジあり
 ABグローバル・ハイインカム・オープン(1年決算型)為替ヘッジなし／為替ヘッジあり

愛称: **ABコンパス**

債券3D運用 あらゆる環境に対応する債券投資は3Dの時代

「ABコンパス」は、投資環境によって異なる値動きをするさまざまなセクターの債券へ機動的に分散投資することで、相対的な値動きの安定性を重視する、「債券3D運用」を行なっています。

「ABコンパス」は、株式ほどのリスクを負わずに、資産運用のコアとなる債券資産へ投資しながら、あらゆる投資環境において、トータルリターンを最大化をめざすファンドです。

債券3D運用における、3つのDとは……

Diversification

さまざまな債券に投資

Dynamics

機動的に配分を変更

Defensive

安全への意識

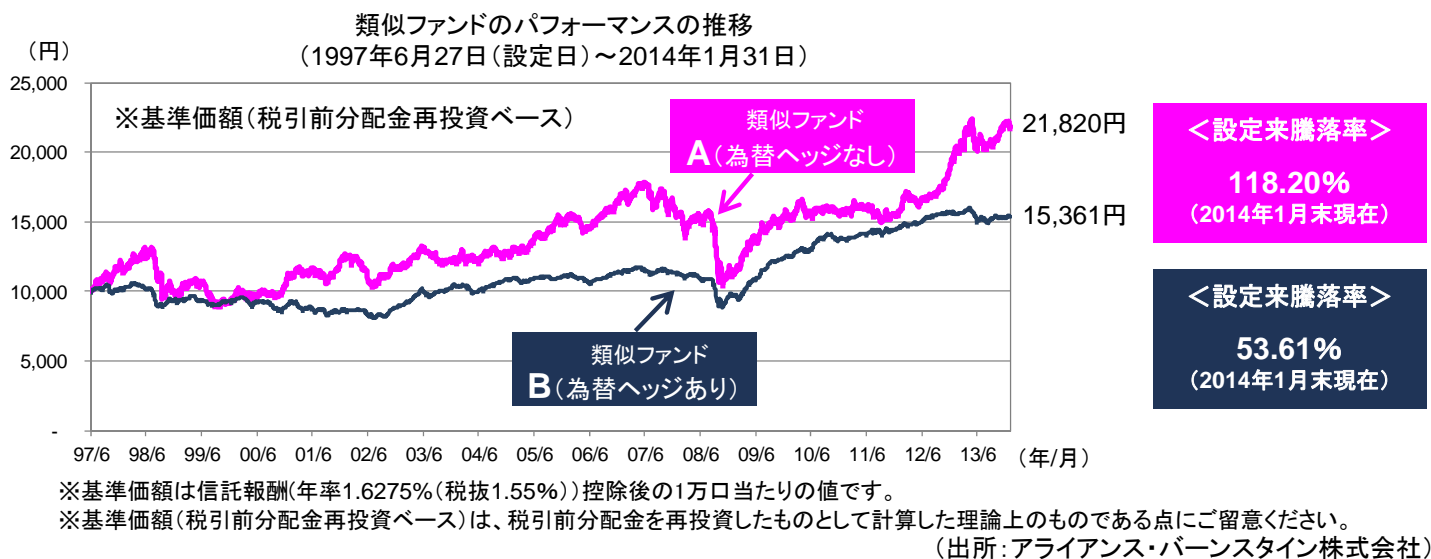
「ABコンパス」では、比較的値動きが安定している先進国の投資適格国債・社債に投資を行なうとともに、相対的に高い利回りの獲得が期待されるハイイールド社債や新興国債券にも投資を行なうことで、収益の向上を図ります。

「ABコンパス」と実質的に同様の運用戦略を用いている既存ファンド(以下、類似ファンドといいます)は、設定来、堅調なパフォーマンスを維持しています。

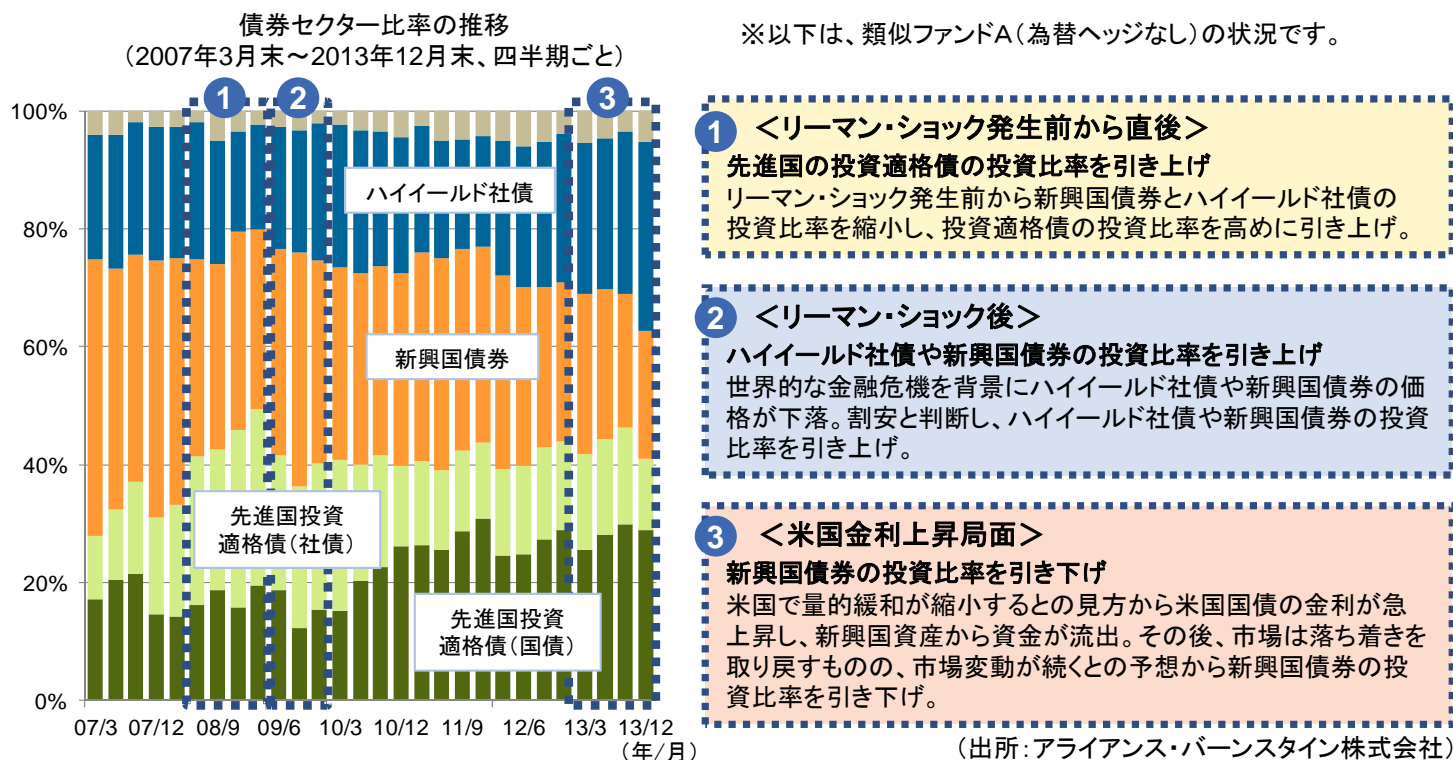
(類似ファンドのパフォーマンスなどについては、次ページをご参照ください。)

当レポートでは、債券市場や為替の見通しなどについて、当ファンドの実質的な運用を行なう、アライアンス・バーンスタインからのコメントをご紹介します。

(ご参考) 「類似ファンド」の設定来のパフォーマンス



(ご参考) 「類似ファンド」の債券セクター別比率の推移



当資料では、当ファンドと実質的に同様の運用戦略を採用している既存ファンドを「類似ファンド」として掲載しています。

※類似ファンド*は、当ファンドと実質的に同様の運用戦略となることから、参考資料として掲載しています。(類似ファンドのパフォーマンスは、分配金再投資ベース・信託報酬控除後の数値です。)ただし、当ファンドと類似ファンドは、投資形態、信託報酬率、運用資産の規模、設定解約に伴う資金流入額などが異なるため、当ファンドの運用成果は類似ファンドと異なります。

*類似ファンドはアライアンス・バーンスタインが運用しているファンドです。

※当ファンドが類似ファンドと同様のリターンまたはリスクを達成することを約束するものではありません。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「ABグローバル・ハイインカム・オープン(毎月分配型)為替ヘッジなし/為替ヘッジあり、ABグローバル・ハイインカム・オープン(1年決算型)為替ヘッジなし/為替ヘッジあり<愛称: ABコンパス>」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

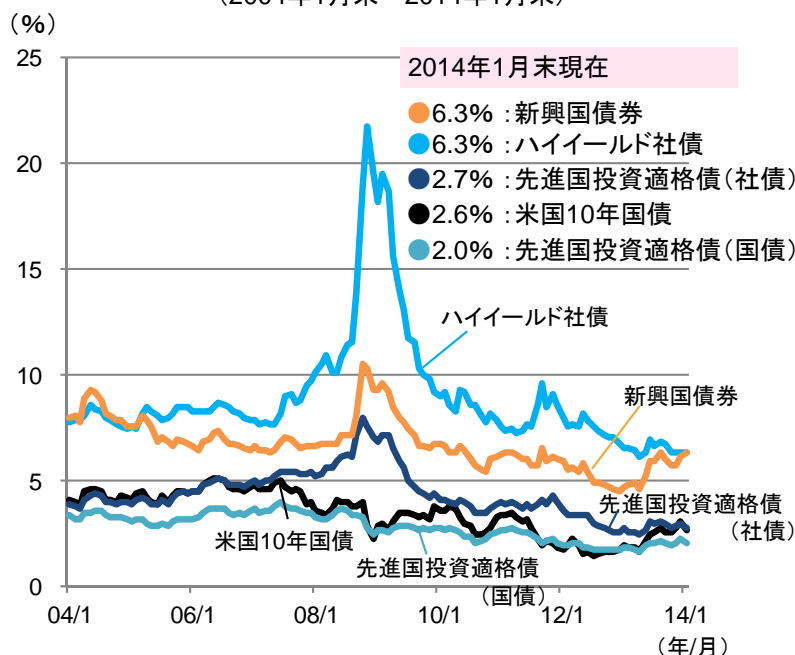
債券

債券市場の見通し

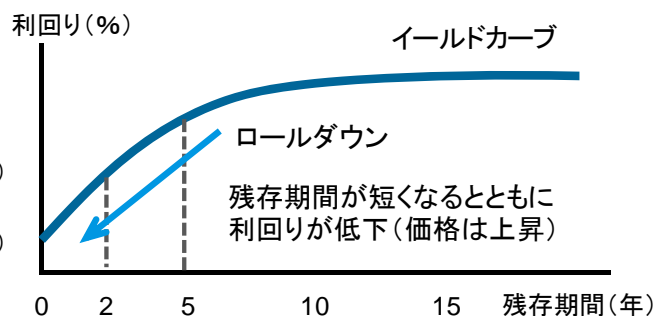
金利上昇は緩やかなペースにとどまり、債券の投資環境は良好な見通し

- ・景気の回復は、一般に金利上昇要因となりますが、各国の景気回復ペースは緩やかなものになると見られ、主要国の金利上昇ペースも緩やかなものにとどまると予想しています。また、米国では今年1月に量的緩和の縮小が開始されましたが、市場は既に2015年以降の利上げまで織り込んでいるものと考えます。これを材料に、今後、急激な金利上昇が生じる可能性は低いとみています。
- ・このように景気回復が緩やかで、金利上昇も緩やかな市場環境下では、利回り収入とロールダウン効果(時間経過に伴う債券価格の上昇)を勘案すれば、先進国の中長期国債のリターンは、中期的にプラスを維持できる公算が強いと見ています。また、先進国社債、ハイイールド社債、新興国債券の対米10年国債スプレッド(上乗せ金利)は緩やかな縮小を見込んでおり、国債よりも利回りの高い債券の組入れが有効に機能する相場環境を想定しています。

＜各資産の利回りの推移＞
(2004年1月末～2014年1月末)



＜ロールダウン効果とは＞



※上記はイメージです。

イールドカーブは債券利回りと残存期間との関係を示したグラフ(曲線)で、債券投資における重要な指標です。イールドカーブが右上がりであった場合、残存期間が短くなるに従い、利回りがイールドカーブの傾斜に沿って下がる(ロールダウン)ことで、債券価格が上昇することを、ロールダウン効果といいます。特に長短金利差が拡大し、短期金利の水準に変化がない場合に有効であると考えられます。

先進国投資適格債(国債): JPモルガンGBIグローバル、先進国投資適格債(社債): バークレイズ・グローバル総合・社債*
 新興国債券: JPモルガンEMBIグローバル、ハイイールド社債: BofAメリルリンチ・米国ハイ・イールド・マスターII
 *一部新興国の投資適格債(社債)が含まれます。

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

上記は、当ファンドを実質的に運用している、アライアンス・バーンスタインからのコメントなどをもとに日興アセットマネジメントが作成しています。

債券

各債券セクターの見通し

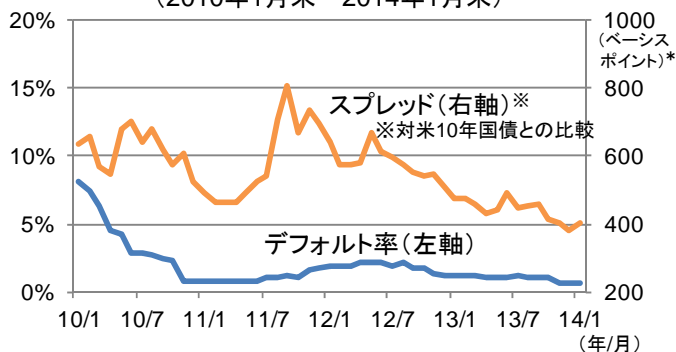
<ハイイールド社債>



デフォルト率を勘案しても割安感が魅力

- 企業収益は依然堅調で、ファンダメンタルズに問題はみられず、高い利回りを求める投資家の資金の流入も継続しています。
- 足元のデフォルト率を勘案しても、割安な価格水準にあると見ています。
- 足元で変動性が高まっている新興国債券との値動きの連動性は低下傾向にあります。

<米国ハイイールド社債スプレッドとデフォルト率の推移>
(2010年1月末～2014年1月末)



スプレッド: バークレイズ米国ハイイールド社債スプレッド
デフォルト率: JPモルガン・ハイイールド社債デフォルト率 (金額ベース)

表中のマークの定義は次のとおりです。(2014年1月現在)
晴れ: 現状ポジティブに予想していることから、当該資産クラスの価格上昇が期待される。
晴れときどき曇り: 若干の懸念材料が存在するが、ポジティブな要因の影響の方が大きいと予想される。
曇り: ネガティブな要因とポジティブな要因の影響が拮抗していると予想。

<先進国国債>



金利は緩やかに上昇、
高利回り債券投資の補完の役割

- 米国の金融政策の見直しは、既に市場では相当程度織り込まれており、金利上昇ペースは緩やかになると考えられることから、中長期国債のリターンは中期的にプラスを維持できると見ています。

<先進国社債>



大幅な価格上昇は見込めないものの、
国債対比で高い利回りが魅力

- リーマン・ショック後の企業の財務健全化の動きは収まりつつあると見ています。
- これまでのような対国債スプレッドの大幅な縮小(価格の上昇)は期待できないとしても、安定的なリターンの確保が可能であると見込んでいます。

<新興国債券>



足元の混乱は要注意ではあるものの、
国ごとに投資機会を見極めたい局面へ

- アルゼンチンやトルコなどの混乱による、新興国市場全体への影響は小さいものの、引き続き注意が必要です。
- 一方で、先進国の景気回復の恩恵を受けて多くの新興国経済で好転の兆しも見られます。

ハイイールド社債については、足元のデフォルト率を勘案しても割安感があることに加え、今後見込まれる景気回復などにより、発行体の信用状況の改善が見込まれる(債券価格の上昇が見込まれる)ことから、より魅力的な銘柄への選別投資を行なう機会と考えます。一方で、1月下旬には、アルゼンチンペソの急落を受けて、新興国通貨のみならず、先進国の株式市場なども下落するという、市場全体が「リスク回避」の状態となりました。今回のアルゼンチンの通貨急落が、新興国全体や世界の金融市場に深刻な影響を及ぼす可能性は小さいと見ているものの、当面は新興国債券市場において変動性が高い状況が続く可能性があると見ています。

このような局面では、当ファンドが採用している、様々なセクターへの投資が可能なマルチセクター債券運用が有効に機能するものと考えられます。
米国の金融政策見直し等による景気への影響や変動性の高い状況に備えながら、比較的利回りの高い債券も組入れることにより、利回り収入(インカム収入)の確保を図ります。

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

上記は、当ファンドを実質的に運用している、アライアンス・バーンスタインからのコメントなどをもとに日興アセットマネジメントが作成しています。

為替

為替市場の見通し

金融政策の方向性がカギ、日本銀行の異次元緩和を背景に円安となりやすい傾向

- ・米国で、2014年1月から量的緩和縮小が開始された一方で、欧州や日本では大胆な金融緩和政策が続いているなど、各国中央銀行による金融政策の方向性の違いが、今後の為替動向に影響するとみられます。
- ・日本では、2013年4月以降、日本銀行による異次元金融緩和が堅持されており、これを背景に主要通貨に対して円安となりやすい傾向が続くと見えています。また、アベノミクスは基本的に自国通貨安を後押しする政策であることや、日本の貿易収支の赤字の悪化傾向が続いていることなども、円安材料であると見えています。

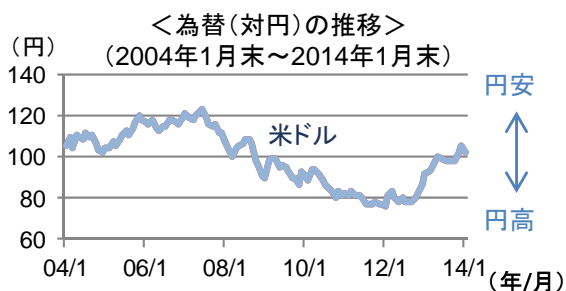
<主要通貨の見通し>

米ドル



量的緩和縮小と景気回復から強気

米国では、量的緩和の縮小が始まり、大胆な金融緩和政策が見直される方向であること、米国経済の回復傾向がより確かなものとなってきていることなどを背景に、米ドルについては強気に見ています。米ドル高円安方向の見通しです。

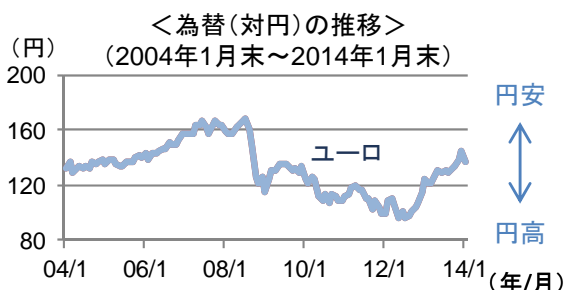


ユーロ



大胆な金融緩和策継続が見込まれ、対円では横ばい

欧州では、景気動向や周縁国の債務問題等に配慮して大胆な金融緩和政策が堅持される見通しです。景気は底打ちから回復の傾向が強まっていますが、その確信度が高まるにはもう少し時間が必要と見込まれます。ユーロについては、対円で横ばいの見通しです。

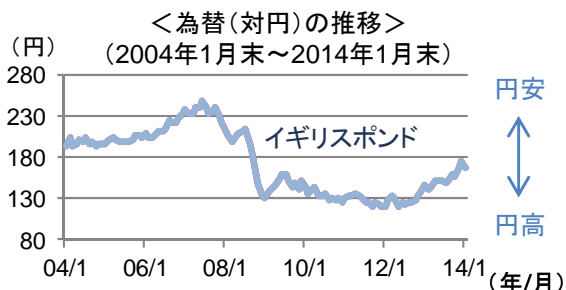


イギリスポンド



金融政策見直しの可能性はさほど大きくない見込み

英国では、足元で経済指標の上振れが見られます。しかしながら、同国経済が金融産業に依存した構造であることを考えれば、現在の大胆な金融緩和政策が見直される可能性は市場で予想されているほど大きくないと考えられ、イギリスポンドについては、対円で横ばいの見通しです。



* 上記は2014年12月末までの見通しです。(2014年1月末時点)

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果などを約束するものではありません。

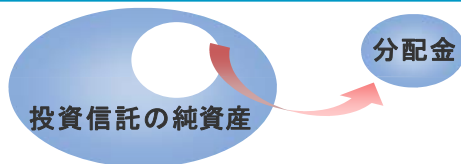
上記は、当ファンドを実質的に運用している、アライアンス・バーンスタインからのコメントなどをもとに日興アセットマネジメントが作成しています。

■当資料は、投資者の皆様へ「ABグローバル・ハイインカム・オープン(毎月分配型)為替ヘッジなし／為替ヘッジあり、ABグローバル・ハイインカム・オープン(1年決算型)為替ヘッジなし／為替ヘッジあり<愛称:ABコンパス>」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

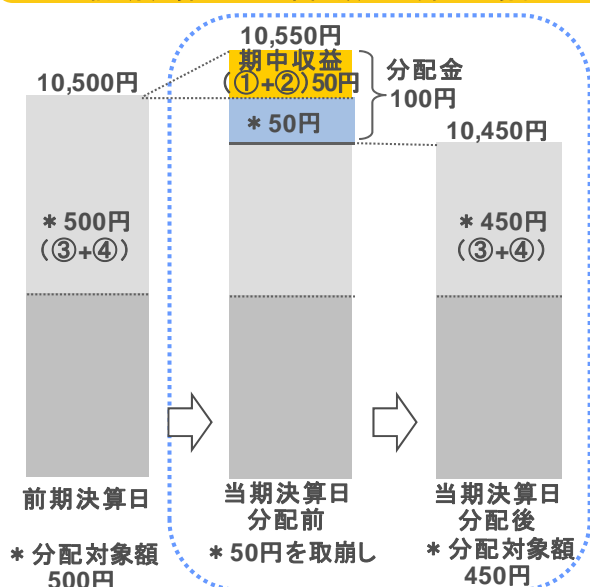
投資信託で分配金が支払われるイメージ



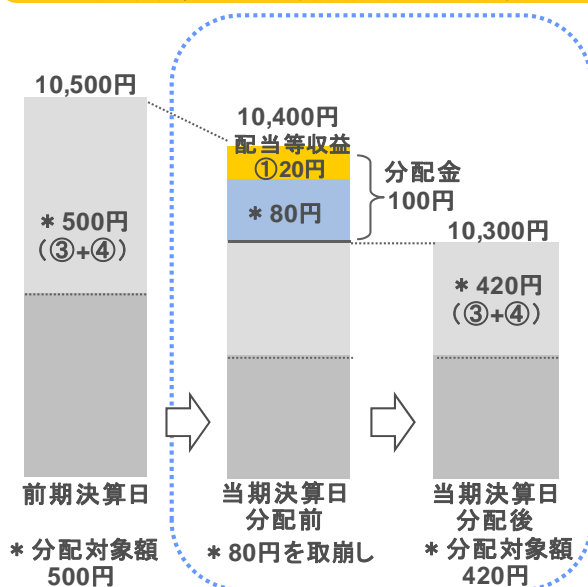
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合



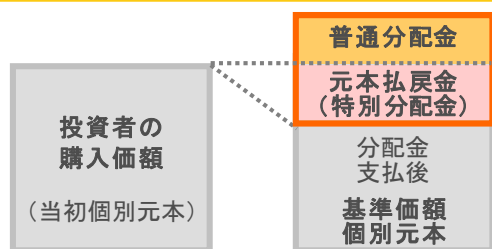
前期決算から基準価額が下落した場合



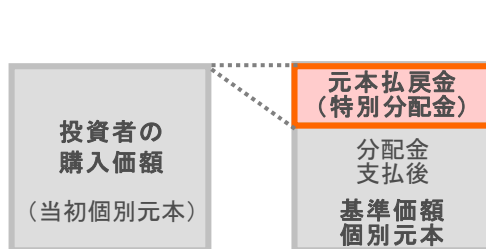
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
 ※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は**非課税扱い**となります。

普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金 (特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

お申込みに際しての留意事項①

■ リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に債券を実質的な投資対象としますので、債券の価格の下落や、債券の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

■ 公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

■ 新興国の債券は、先進国の債券に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。

【流動性リスク】

■ 市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。

■ 新興国の債券は、先進国の債券に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

■ 公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト(債務不履行)が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落(価格がゼロになることもあります。)し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

■ 一般にハイイールド債券は、上位に格付された債券と比較して、利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じる可能性が高いと考えられます。

■ 新興国の債券は、先進国の債券に比べて利回りが高い反面、価格変動が大きく、デフォルトが生じるリスクが高まる場合があります。

(次ページへ続きます)

お申込みに際しての留意事項②

【為替変動リスク】

(前ページより続きます)

◆為替ヘッジなし

- 外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- 一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

◆為替ヘッジあり

- 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ない、為替変動リスクの低減を図ります。ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、為替ヘッジを行なうにあたっては、円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低い場合、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。為替および金利の動向によっては、為替ヘッジに伴うヘッジコストが予想以上に発生する場合があります。

【カントリー・リスク】

- 投資対象国における非常事態など(金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など)を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- 一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

【延長リスク／期限前償還リスク】

- モーゲージ証券や資産担保証券においては、原資産となっているローン(住宅ローン、リース・ローンなど)の期限前返済の増減に伴うデュレーションの変化によって、当該証券の価格が変化するリスクがあります。一般に金利上昇局面においては、ローンの借換えの減少などを背景に期限前償還が予想以上に減少し、金利低下局面においては、ローンの借換えの増加などを背景に期限前償還が予想以上に増加する傾向があります。

【期限前償還に伴う再投資リスク】

- モーゲージ証券や資産担保証券が期限前償還された場合には、償還された金銭を再投資することになりますが、金利低下局面においては、再投資した利回りが償還まで持ち続けられた場合の利回りより低くなる場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

お申込みに際しての留意事項 ③

■ その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様へ「ABグローバル・ハイインカム・オープン(毎月分配型)為替ヘッジなし／為替ヘッジあり、ABグローバル・ハイインカム・オープン(1年決算型)為替ヘッジなし／為替ヘッジあり<愛称:ABコンパス>」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などをSMBC日興証券よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

お 申 込 メ モ

商品分類	追加型投信／内外／債券
ご購入単位	分配金受取りコース：(新規購入時)10万口以上1万口単位(追加購入時)1万口以上1万口単位 分配金再投資コース：(新規購入時)10万円以上1円単位(追加購入時)1万円以上1円単位 (スイッチングの場合)1万円以上1円単位 (全額スイッチングを行なう場合)1円以上1円単位
ご購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	2028年11月22日まで(2014年1月31日設定)
決算日	【毎月分配型】(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)毎月22日(休業日の場合は翌営業日) 【1年決算型】(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)毎年11月22日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	【毎月分配型】(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)2014年3月以降の毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 【1年決算型】(為替ヘッジなし／為替ヘッジあり)毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 ※原則として、収益分配金は税金を差し引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。再投資を停止し、分配金のお受取りをご希望される場合はお申し出ください。 分配金のお受取りをご希望される場合、SMBC日興証券の定める所定の日よりお支払いいたします。
ご換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額
ご換金代金のお支払い	原則として、換金請求受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

委託会社、その他関係法人

委託会社	日興アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号 加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社	三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
販売会社	SMBC日興証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会